

# 研究所第7回フォーラム 「恋愛と結婚における幸せ (Well-being)」

川名 好裕 (立正大学心理学部教授)

## はじめに

皆さんこんにちは。立正大学心理学部の川名と申します。よろしくお願いいたします。

今日のタイトルは、恋愛と結婚における幸せです。この幸せとは英語ではWell Beingとあって、最近の学会で非常に重要な一つのテーマになっています。これに合わせて、私が行っている研究のうち特に、カップルの幸せとか不幸などに関する問題について集めたデータを解説しながら進めていきたいと思えます。

今日の話は次の4つの部に分かれています。第1部では男女関係の進展ということについてお話します。第2部は男女の行動と心の関係についての分析です。第3部が、男女の意見不一致について考えます。最後に、第4部では恋愛関係と結婚関係には、いろいろな恋愛カップルやいろいろな夫婦カップルがあると思えますが、そのタイプを分けて見ていきたいと思えます。

## 1. 第1部：男女関係の進展

それでは、第1部の男女関係の進展についてです。男女関係は、最初知り合い、そして恋心が芽生え、恋人同士になって最後に結婚するというように簡単にいけばいいのですが、中々うまくいかないことも多いはずで、本日紹介するデータは、知り合う段階にあたる友人段階から最後の夫婦になるまでの全ての段階でのデータを集めております。

### (1) 調査方法

調査は2011年に行いました。全国の20代から40代の男女、各千人くらいを目標としてインターネットオンライン調査を行いました。その結果、有効回答者数は男性968人、女性967人となりました。男女関係の段階として次の6つの段階それぞれについて男女バランスを考慮してデータを集めています。最初の「友人段階」、2番目は一方が他方を好きであっても、他方はそうでないというような「片思い段階」、3番目に「精神的恋人段階」、要するに、恋人同士ではあるけれども、まだ性的な関係のないプラトニックな恋人段階です。分析の中でプラトニックと精神的のどちらかの言葉を使っている場合がありますが同じものです。その次が、「性的恋人段階」。性的な関係がで

きた恋人段階です。5番目が「婚約者段階」です。婚約しているという人はなかなか集めにくく、学生を対象にした調査の場合、1人いるか0人ですが、インターネット調査ですので集めることができました。最後に、結婚して夫婦関係にある「配偶者段階」です。調査では、あなたの一番身近な人間関係の中で一番大切な異性を想定してもらい、それが6つの男女関係の段階のいずれにあてはまるのかを尋ねます。

さて、男女関係では次に挙げる10の要因が重要になります。これらの要因について質問紙で調査をしています。

まず、男女の行動的側面です。男女が付き合うときにみられる側面ですが、分類してみますとポジティブ行動とネガティブ行動にわけられ、さらにそれぞれに3つの要因があります。

ポジティブ行動とは、男女関係が進展するのに貢献するような要因です。1番目として「コミュニケーション」があります。対面で話をするとか、離れていてもメールや電話をするとか、言葉を使ったコミュニケーションの側面です。2番目が「共行動」です。これは一緒にする行動のことで、デートをする、一緒に食事をする、一緒に映画を見る、一緒にディズニーランドに行くといった行動です。ご夫婦になって一緒に法事に出かける、親類の家に行くのも共行動です。3番目は「身体接触」です。男女関係では必然的に身体接触が生じます。親密な意味で身体接触をする場合もあれば、性的な意味で身体接触をする場合もありますが、ここでは両方を含めて身体接触としております。

一方で、3つのネガティブ行動があります。男女関係が危うくなるような行動です。まず「意見不一致」です。自分と相手の意見が違い、それを言葉に出すと争い争いになったり、喧嘩になったりします。このような側面を意見不一致といいます。2番目が「浮気」です。パートナー以外の異性となんらかの関係を持つことです。それに対する反応として、3番目の「嫉妬」があります。

その次に、男女の心の側面の要因として次の4つがあげられます。まず「情熱性」です。これは恋心、人を恋することです。恋愛は「恋」と「愛」の文字からなりますが、その情熱の部分はいわゆる「恋」の部分です。相手の存在が欲しいとか、相手に恋い焦がれるというような意味で情熱性という言葉を使っています。

す。2つ目が「親密性」です。いわゆる「愛」に相当します。愛は男女関係でなくても、親子関係や友人関係にも共通のものです。そして、3つめに性欲によって結びつく「性欲性」があります。男性と女性、動物としての側面です。最後に「コミットメント」です。簡単に言うと約束事です。相手と結婚することを約束するといった場合が例としてあげられます。コミットメントには、重大な行動をして後戻りができなくなる段階を含んでおります。例えば、相手と最初にキスをする、最初に性的関係になる、婚約する、結婚する、子どもができるといった、これら全てがコミットメントの重要な段階です。日本語では、「しがらみ」なんて言葉がありますが、相手との約束や、知り合いの人への報告、結婚などは役所などの社会に報告しますので、それらをコミットメントと言っています。

アンケートでは、この他、相手の年齢、どこに住んでいるか、どんな職業かなどを尋ねる質問項目もあります。

## (2) 比較方法

集めたデータは次の3つの方法で比較します。

まず、男女比較です。男と女で行動や心はどう違うのかという側面が、男女比較になります。2番目に年代比較です。20代、30代、40代の年代ごとでの比較ですが、今回のプレゼンテーションでは、この部分は省略させていただきます。3番目は関係段階比較です。相手と自分との関係がどういう段階かということで比較します。

## (3) 行動的側面の男女比較

まず、ポジティブ行動の結果です。最初にコミュニケーションについてです。コミュニケーションは、相手と対面でどのくらい話をするのか、メールや電話のやり取りといった側面がどの程度あるのか、などを聞き、因子分析で抽出された項目です。6つの各段階で、どの程度コミュニケーションがあるのかについて因子得点をもとに比較します。

友人段階から性的恋人段階あたりまでの男女の付き合いの初期の段階では、男性の方がコミュニケーションに積極的です。それに対して、婚約者段階や配偶者段階になると、女性のほうが男性を上回り、積極的になることが示されました。このうち、2番目の片思い段階は、遠くで見ているのでコミュニケーションは

少ないのですが、男性は、ある程度自分が好きな相手に話しかけますが、女性はすべての段階のなかで一番コミュニケーションが少なくなっています。すなわち、片思い段階の女性のコミュニケーションは、男性から気づかれにくいポジティブ行動の側面ということになります。このように、男女では、男性のほうが関係の初期の段階に積極的で、女性は後半の段階以降、二人の関係が確実になってから積極的になるという違いがあります。

次に、共行動についての結果です。共行動は、友人や片思いの段階では一緒に行くことはなく、因子得点は男女ともに0以下の数値です。一緒に行動することができるのは、恋人段階のプラトニック関係からであり、その段階から共行動が増えていきます。性的恋人段階になるとさらに増え、婚約者段階で男性は最も高く、女性は配偶者の段階で最も共行動を行うようになります。共行動は結婚するまでは男性の方が女性よりも積極的に行い、配偶者になると女性のほうが積極的になるという特徴があります。

3番目に身体接触の度合いの結果です。男性のほうが全ての段階で女性よりも身体接触が多いという大きな特徴があります。友人段階から性的恋人段階までは男女の身体接触の増加傾向は似ており、性的恋人、婚約者段階では男女の身体接触の多さは同じ程度になります。しかし、配偶者段階になると男女ともに低下し、特に女性の身体接触は急激に下がります。婚約者段階が頂点ということになります。

今度はネガティブな行動の側面の結果を説明します。まずは、意見不一致、すなわち、相手と自分との意見が違うことが、どのくらい多いのかということです。初期の段階から性的恋人段階までは男性が多く、婚約者、配偶者段階になると、女性のほうが上回ってきます。コミュニケーションや共行動と同様に、関係の前半と後半で行動がなされる程度が男女で入れ替わっています。

次は浮気です。これは浮気心とか浮気的な行動についての質問の得点です。浮気は今までの結果とは大きく異なります。全ての段階で、女性より男性のほうが浮気心が高いことがわかります。男性の浮気心は、友人段階から性的恋人段階まで一貫して高く、婚約段階、結婚段階で急激に下がります。一方、女性はもっと極端な傾向です。因子得点は友人からプラトニック恋人段階まで0より少なく、性的恋人段階にな

るとさらに下がります。そして、婚約、配偶者段階になると急激に低下します。要するに婚約や結婚した段階では、女性は全然浮気をしなくなるということです。

ネガティブな行動の3番目は嫉妬です。浮気をした相手に対する嫉妬心や嫉妬的な行動です。嫉妬というと、男性が浮気をして、女性が嫉妬するというように世間で思われがちですが、調査結果はやや異なります。男性のほうが嫉妬の得点が女性よりも高いのです。友人からプラトニックの段階でも、男性のほうで嫉妬心が強く、高くなっていきます。唯一、性的恋人段階で、男女の値が同じぐらいになります。その後、婚約者、配偶者になると女性の嫉妬心は低下しますが、男の嫉妬心は非常に高くなります。要するに、自分が確保した相手に浮気をさせないというような嫉妬心が強いということです。先ほどの浮気と同様に男性の方が女性より高い値を示し、男性は女性以上に嫉妬深いという特徴が今回の調査でわかりました。

#### (4) 心理的側面の男女比較

心の側面の1つ目は男女の親密性です。親密性の中核は愛なのですが、これが各段階でどのように変化するのかを男女で比較しました。友人から、性的恋人あたりまでは男女ともに似たような値で上昇をするのですが、婚約者段階や配偶者段階になると、女性のほうで圧倒的に親密性が高くなります。それに対して、男性は婚約者段階をピークに下がっていきます。確実な相手が決まったときに、女性の愛は最大の値になり、配偶者の段階においても維持されるのに対して、男性は婚約者で最大の値となるものの、配偶者になると少し下がります。

次は情熱性です。親密性と情熱性は違います。先ほども述べましたが、親密性が愛だとすれば、情熱性は恋です。親密性の結果と情熱性の結果は全く異なります。情熱性の頂点の位置は男女ともに片思い段階にあり、最も低い友人関係から急激に上昇し、一番恋心が高いということがわかります。その後、男性はなだらかに低下し、婚約者段階でやや上がり、次の頂点となります。女性の場合は、片思い段階で頂点を迎えて以降は少しずつ下がって、配偶者になると男性より下がります。女性より男性のほうが、つまり、奥さんが旦那さんに持っている恋心よりも、旦那さんが

奥さんに持っている恋心のほうが強いということですね。親密性と情熱性の概念は区別しないといけませんが、この結果からわかります。

最後に性欲性です。これも明らかに男女で大きな違いがあります。性欲性は性的関係まで徐々に上がり、その後やや低下しますが、全ての段階で女性より男性のほうで性欲性が非常に高く、男性にとっては男女関係の中核に性欲性があるようです。

## 2. 第2部：男女の行動と心の関係

### (1) 第2部の目的

男女関係には付き合いの内容を意味する、コミュニケーション、共行動、身体接触という主要な行動的側面があり、心の問題として、親密性、情熱性、性欲性、コミットメントといった側面があります。この行動的側面と心の側面はどのように対応しているのでしょうか。友人関係から配偶者段階の全段階において、行動的な要因から心理的要因への影響を重回帰分析によって分析しました。

### (2) 心の側面に影響を与える行動的側面

まず親密性がどういう付き合いによって影響を受けるかという点です。共行動によって、親密性が増するのは男女とも同じぐらいの影響力ですが、身体接触によって親密性が促進されるのは男性のほうが強く、女性の2倍以上の影響力を持っています。それに対して、コミュニケーションは男女で逆転し、女性のほうがコミュニケーションによって親密性が促進されるという結果となりました。親密性への影響力の大きさの関係は、男性は共行動や身体接触が親密性にとって重要であり、コミュニケーションは3番目ぐらいに重要ですが、女性にとって重要なのはコミュニケーションが1番であり、共行動、身体接触の順であると考えていることがわかりました。男性は身体接触によって親密性が促進されますので、女性は、作戦として、男性に身体接触することによって親密性を高めることができる可能性があります。ところが、男性が女性の親密性を高めるためには、身体接触もある程度は必要ですが、それよりもコミュニケーションが重要になります。たくさん会話をし、メールのやり取りをして、電話するという行動によって女性の親密性が促進するという結果です。このように、男女で影響する要因が大きく

違っていました。

次に情熱性への影響です。男女で多少の違いはありますが、情熱性には身体接触が一番大きな影響力を持っていました。その次が、コミュニケーションの影響です。共行動はマイナスの影響力を持っており、むしろ共行動はしないほうが、情熱性を促進するためにはよいということになります。ただし、この情熱性は付き合ってから生まれるものではなく、付き合う前に発生する可能性が高いと思われます。一番の原因は、おそらく異性の外見の美的魅力や性的魅力が刺激となって、恋心が発生します。その証拠に、先に述べたように情熱性が6つの段階の中で最も高かったのは片思い段階でした。片思いは、まだ相手との付き合いが始まってない段階であり、情熱性が一番高いということは、相手の美的魅力とか性的魅力といったルックスが情熱性の解発刺激になっているのだと思います。ただ、付き合い始めてから情熱性を高めるのは身体接触ということになります。

そして性欲性ですが、これは非常に単純であり、身体接触のみに強い影響を受けます。これは男女に違いはほとんどありません。ただし、男性と女性を比較しますと、普通男性のほうが、女性に性的なアプローチをかけるほうが多くなります。なぜかという、男性は女性のルックスを見て、相手の性的魅力から性欲が起きますが、女性は愛する人と、自分が許した人と関係が始まって身体接触が起きてから性欲性が亢進します。先ほどの情熱性の結果と比較すると、情熱性には身体接触とコミュニケーションの影響がありますが、性欲性にはコミュニケーションは影響しません。コミュニケーションや共行動は性欲性には邪魔なものであり身体接触のみが性欲性に貢献するという結果です。性欲性は女性の外見的な、特に性的魅力によって刺激され、男女の身体接触によって育成されると考えるとわかりやすいかと思います。

最後にコミットメントへの影響です。コミットメントについては、男女ともに、コミュニケーション、共行動、身体接触の3つの要因が全て関係していますが、一番大きな影響力を持っているのが身体接触です。相手との性的な関係ができることが、後戻りができないという力を生むということでしょうか。そして、共行動、コミュニケーションの順に、身体接触の半分ぐらいの影響力で続きます。コミットメントという概念は、最初に説明しましたが、付き合っている相手への約

束や、結婚といった社会への約束であり、男女関係の進展を後戻りにさせない機能を持っています。それゆえ、コミットメントは、身体接触により最も影響を受けるのです。

### 3. 第3部：男女の意見不一致の原因

#### (1) 第3部の目的

男女関係の幸せの対極は不幸ですが、不幸の原因となる意見不一致について分析を行ってみました。すなわち、男女のどういった行動的側面と心理的側面が意見不一致を生じやすいかということについてプラトニック恋人関係、性的恋人関係、結婚関係の3つの関係性段階それぞれで重回帰分析を行いました。

ところで、意見不一致を理論的に考えた場合、いつ生起きるのかを考えてみてください。相手とコミュニケーションをしているときに、相手と自分の意見が対立する。または、相手と自分の好き嫌いが違う。こういったことが判明するときに意見不一致が起きます。具体的な例で考えるとどうでしょうか。デートで食事に行きたいと思っているときに、女性はイタリア料理が食べたいと言い、男性の方ではイタリア料理は嫌いだから日本料理に行こうと言ったとします。このとき意見不一致が起きます。このように、コミュニケーションの段階で、相手と自分の意見が違うというだけで意見不一致が起きます。これが意見不一致の生じる1つの場面です。

2つ目として、相手と一緒に同じ行動する、すなわち、共行動をするときに、相手のしたいことと、自分のしたいことが異なる場合に意見不一致が起きます。例えば、同じ部屋にいて、寒がりの人はエアコンの設定温度を高くしますが、暑がりの人はそれより低く、その人にとって程よい温度にします。設定温度ひとつをとっても意見が一致しません。このように、一緒に行動することが必要なときに、意見を合わせるができないという事態が起きるのです。他の例では、日曜日に一緒にどこかに出かけるときに、男性が行きたいところと女性が行きたいところが異なる場合に意見不一致が生じることが考えられます。つまり、一緒にいたいということを実現しようとする意見不一致が起きるのです。ただし、同じ部屋にいて、男性はテレビを見ていて、女性はスマートフォンを操作している場

合には喧嘩にはなりません。同じところにおいても共行動をしていないからです。こういった場合には、共行動しないほうが喧嘩は起きません。

このように考えてみると、コミュニケーションをすることが多くなればなるほど、または共行動をするチャンスが多くなればなるほど、意見不一致が起きやすくなります。コミュニケーションがないほうが、または共行動がないほうが意見不一致は起きないのですが、そうすると、二人はバラバラになってしまいます。したがって、当然のことながら、コミュニケーションや共行動が増える男女の親密な関係では、意見不一致や、その結果としての喧嘩も多くなります。男女関係の俗説で、「仲が良いほど喧嘩する」という言葉が昔からありますね。子どもの頃は、この言葉の意図がよくわからず、仲がいいのならば喧嘩しないだろうと思っていましたが、心理学で親密な関係について研究をしているうちに、仲がいいほど喧嘩する理由がよくわかるようになりました。

しかし、仲が良いから喧嘩しないカップルもいます。そこで、どういうカップルで意見不一致が生じて喧嘩をし、どういうカップルが和合して喧嘩をしないのかをデータを分析して見ていこうと考えました。

## (2) プラトニック恋人関係の意見不一致の原因

まず、恋人関係のうち、デートをする段階ではあっても性的関係がないプラトニックな恋人関係における意見不一致の原因についての分析です。男女で、意見不一致を招く行動的側面と心理的側面の影響が異なっていました (Figure 1)。男性は濃い色の棒グラフ、女性は薄い色の棒グラフを示している要因が意見不一致に関係するようです。

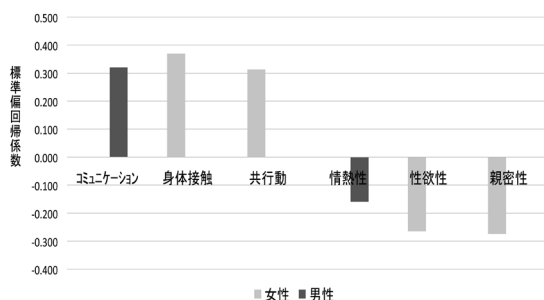


Figure 1 プラトニック恋人関係の意見不一致の原因

男性は、コミュニケーションが多くなればなるほど

意見不一致が増え、情熱性はマイナスの方向を指していますので、情熱性が低くなるほど意見不一致が増えます。情熱性は相手に対する恋心ですから、相手に恋心を抱いていない、ハッキリ言ってしまうと好きではない、そういう相手に対しては意見不一致が出てきやすいということです。つまり、男性の場合は非常に単純で、コミュニケーションを増やすと相手と喧嘩する可能性が高くなり、相手を好きではないと意見不一致が出てくるというパターンです。

一方、女性は複雑です。女性はコミュニケーションではなく、相手との身体接触が増えれば増えるほど、それから、共行動が増えれば増えるほど意見不一致が起きる。これらの行動的側面の結果だけを見てもわからないのですが、心の側面も併せて考えると解釈しやすくなります。性欲性と親密性はマイナス方向の値を示しています。相手の男性に対して性的な欲求が起きない。または、親密性を感じない、好きではないという相手と身体接触が起きたとします。身体接触は男性のほうが積極的ですから、男性のほうから迫られたときに、「やめてよ、さわらないでよ」というように意見不一致が生じるのだと思います。共行動のほうも同様に、親密ではない相手からデートを申し込まれ、どこどこに一緒に行こうとか、一緒に食事しようというように迫られると、当然相手と自分とは意見が異なりますので意見不一致が起きるのです。

以上のまとめですが、男性は相手に対して情熱性がないほど、コミュニケーションが多くなるほど意見不一致が生じやすく、女性は性欲性や親密性を感じない相手と身体接触をしたり、共行動をしたりすることで意見不一致が生じやすくなるのです。

## (3) 性的恋人関係の意見不一致の原因

今度は、恋人関係でも、性的な関係ができた後の恋人関係についてです (Figure 2)。これも男性と女性で結果が異なっていますが、男性のほうが単純な結果です。男性は性欲性を感じない相手や親密性が低い相手との間で意見不一致が起きることが示されました。自分にとっては気がない相手と一緒にいるだけで意見が異なることが起きるのでしょう。そのときに口論になったり、喧嘩をしたりするのです。

一方、女性のほうが複雑です。女性はコミュニケーションが増えれば増えるほど、または共行動が増えれば増えるほど意見不一致が起きます。心理的な測面

の要因として、相手に対して性欲性を感じていず、この人と別れてもいいとか、相手のことを大切に思っていないといったようにコミットメントが低いと、意見不一致が起きやすくなります。それから、親密性を感じない、要するに相手に対する愛がないほうが意見不一致を起しやすいくということになります。因果関係の推定については、ある程度、理屈で考えていくしかなく、このほかにもさまざまな考え方があるかと思えます。

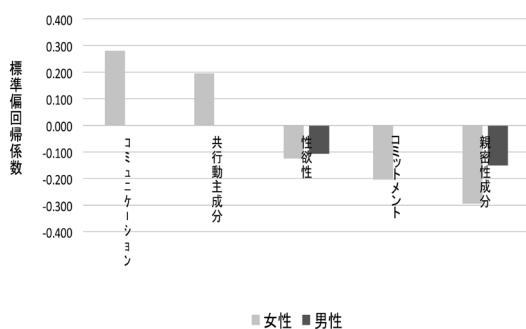


Figure 2 性的恋人関係の意見不一致の原因

#### (4) 夫婦関係の意見不一致の原因

最後に夫婦関係です (Figure 3)。非常に単純で、他の関係性とは様相が異なり、男性と女性でそれぞれ1つの変数だけが関連していました。女性は、コミットメントが少ないほど意見不一致が起きるといった結果でした。コミットメントが少ないというのは、この人とは別れてもいいと思っていることを意味し、そうなると、意見不一致が増えるということです。

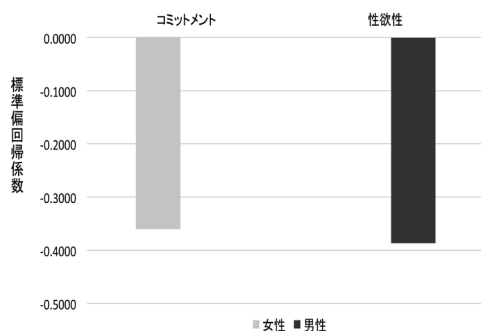


Figure 3 夫婦関係の意見不一致の原因

男性は、性欲性だけが意見不一致の生起に関係しています。相手に対して性欲を感じないということだけが意見不一致に大きな影響を与えるようです。逆に考えますと、性的な関係が夫婦の間でうまくいくと意

見不一致がなくなるということを示唆するのではないのでしょうか。

性的な関係は、女性の立場からすると結婚した後は重要なことではないのですが、男性の場合は結婚後もその重要性が続くようです。女性の場合は、それよりも、この人と自分と一緒にいたいのか、別れてもいいのかという側面が重要になります。それがコミットメントという言葉で代表されますが、結びつきを失い始めた相手への意見不一致が大きいということです。

このように、男女それぞれで一番単純な要因が意見不一致に大きく影響しているということになるかと思えます。男性の方は性欲性を重視し、女性は精神的なつながり、コミットメントを重視するというような男女の違いがあるようです。

## 4. 第4部：恋愛関係と結婚関係のタイプ

### (1) 第4部の目的

同じ恋人関係でもいろいろな恋人のパターンがあるでしょうし、同じ夫婦関係でもさまざまなタイプがあると思います。それぞれの関係にどのようなタイプが存在するのかについて、コミュニケーション、共行動、身体接触の3つの行動的側面の変数と、親密性、情熱性、性欲性、コミットメントの4つの心理的側面の変数を入れて、クラスタ分析したところ、4つのクラスタに分類できました。

なお、これまで示してきたように、男性と女性とは心の側面も行動の側面も影響の仕方が違いますので、別々に分析しています。また、プラトニックな恋人関係と性的恋人関係では、同じ恋人関係でも様相が異なっていましたので、別々に分析しました。実は、最初、プラトニックな恋人関係と性的恋人関係を一緒にして分析したところ、解釈が困難な結果になってしまいました。別々にわけて分析することで解釈が可能になりました。同じ恋人関係にあっても、性的関係があるかないかで様相が異なるということです。

それから、結婚関係については、本来、結婚してどのぐらいになるかという年数も大きな変数として考えられますが、今回は分析に含めておりません。結婚関係全体で4クラスタに分けて示します。

## (2) プラトニックな恋人関係の種類

グラフは見やすいように横に示しています。縦軸に、投入した変数を示しています。コミュニケーション、共行動、身体接触、コミットメントという行動的側面、情熱性、親密性、性欲性という心理的側面、意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気という変数です。なお、意見不一致は単なる意見不一致であり、いさかいは喧嘩まで進んだものを示しています。横軸の中心にある0の位置が全体的な平均な値だと思ってください。

まず、プラトニックな恋人関係の男性の分析結果です (Figure 4)。プラトニックな恋人関係は男性回答者全体で89ケースあり、クラスター分析の結果、クラスタ1は、14ケース、クラスタ2が52ケース、クラスタ3が18ケース、クラスタ4が5ケースでした。

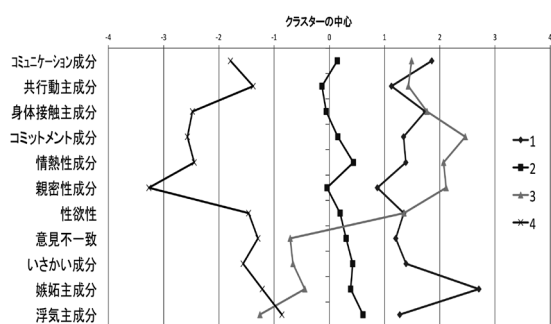


Figure 4 プラトニック恋人関係の男性のクラスタ

注目してもらいたいのはクラスタ3です。これが一番ラブラブのカップルというのがわかります。なぜかといいますと、クラスタ3は仲が良いのです。コミュニケーションも高いし、共行動も高いし、何よりも情熱性、親密性が一番高くなっています。情熱性、親密性が一番高いということは、相手のことが好きで好きで仕方がないという関係ですが、そのようなカップルのときには、いさかいや意見不一致が急激に下がっています。たとえ意見が違ったとしても、相手に合わせるなどして対応しているのだと思います。このような「ラブラブ・カップル」が全体の20.2%を占めます。

その次にクラスタ1を見てください。ある程度、仲が良いのですが、親密性、情熱性はラブラブ・カップルよりは少し下がりますね。そして、特徴は、争いごとが多いということです。意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気が多く、特に嫉妬が高いです。ある程度は仲が良いけれども、争いごとも多いという、典型的な「仲がいいのに喧嘩するカップル」であり、全体の15.7%を占

めます。

では、クラスタ2をご覧ください。真ん中の0の近くにあるクラスタです。全般的に平均的な位置に全ての変数があるのがわかるかと思います。全体のカップルの60%近く (58.4%) を占めます。行動面、心理面でも平均的な値であり、いさかいごと平均的な、ある程度、喧嘩もするけれども仲良しでもあるという「平均的なカップル」です。

最後に、クラスタ4です。非常に少数グループであり、全体の5.6%しかいません。特徴は、親密性が極端に低いことです。親密性が非常に低く、心理的結びつきが少ない、冷たい関係です。しかし、コミュニケーションや共行動が少ないことから、意見不一致やいさかいも、ラブラブ・カップルであるクラスタ3よりも少なくなっています。要するに、冷たい関係は話もしないし、一緒に行動もしないために、当然喧嘩の種すら生まれにくい「関係希薄カップル」ということです。

今度は、女性のプラトニックな恋人関係のクラスター分析の結果をFigure 5に示しました。全体で81ケース、クラスタ1は15ケース、クラスタ2が28ケース、クラスタ3が5ケース、クラスタ4が33ケースです。

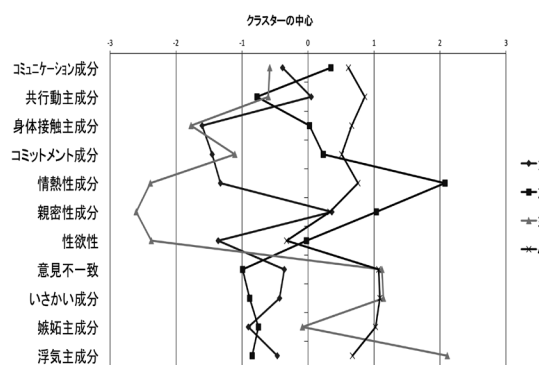


Figure 5 プラトニック恋人関係の女性のクラスタ

まず、注目していただきたいのがクラスタ2です。何が特徴かという、情熱性、つまり、恋心が一番高い人です。そして、親密性もある程度高いです。それに対して、行動面でのコミュニケーションや共行動は、クラスタ4よりも少ない。つまり、相手のことが好きで好きで仕方がないけれど、コミュニケーションは平均的で、共行動は平均より少ないといったカップルです。当然のことながら、共行動、コミュニケーションがないのですから、意見不一致やいさかい、嫉妬、浮気は他のグループよりも少なくなります。これは簡単に言う

と情熱恋愛カップル」であり、34.68%を占めます。

次に、クラスタ4をご覧ください。クラスタ4は、行動面、心理面ともに高く、親密な関係にあります。しかし、意見不一致、いさかい、浮気、嫉妬の得点が軒並み高くなっています。したがって、クラスタ4は、「仲がよいのに喧嘩するカップル」であり、全体の40.7%になります。

そして、クラスタ1は、親密性、共行動は他の変数に比べて高いのですが、情熱性、性欲性が低いのが特徴です。意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気は少なくなっています。要するに「友愛的恋愛型カップル」であり、全体の18.5%がこのタイプになるようです。

最後に、クラスタ3をご覧ください。親密性が非常に低く、情熱性、性欲性も低くなっています。それに対して、浮気得点が高くなっています。また、嫉妬心は低いです。意見不一致やいさかいは、平均カップル並みです。したがって、これが「関係希薄カップル」ということになるでしょうか。全体の6.2%です。

### (3) 性的恋人関係の種類

今度は性的関係ができた後の、恋人関係の男性のデータです (Figure 6)。180ケースのうち、クラスタ1は21ケース、クラスタ2は59ケース、クラスタ3は46ケース、クラスタ4は54ケースです。

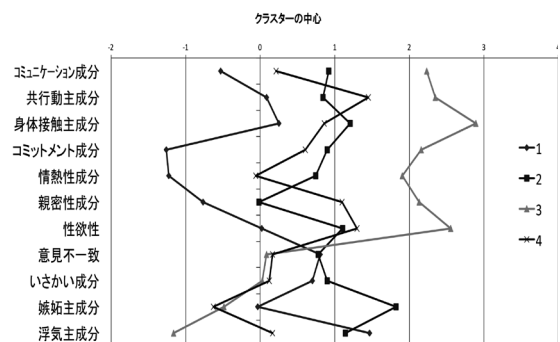


Figure 6 性的恋人関係の男性のクラスタ

最初に、クラスタ3ですが、行動面、心理面での関係が非常に高くなっています。特に身体接触と性欲性が他の変数よりも、他のクラスタよりも高い。そして、意見不一致、いさかい、浮気、嫉妬が非常に低くなっています。つまり、「ラブラブ恋人カップル」です。先にも述べましたが、男性は性的な要因の影響が強いため、性的な満足が得られていると相手とのいさかいを起こさず、浮気もしないのだと考えられます。クラスタ

3は全体の25.6%です。

次に、クラスタ4をご覧ください。クラスタ4は共行動と性欲性、親密性が高く、しかし、情熱性がどういふわけか低いです。親密性が高いので、意見不一致、いさかいは少なくなっています。このクラスタには、男性の「温かい性的主導カップル」というような名前をつけました。全体の30.0%を占めます。

3番目に、クラスタ2をご覧ください。クラスタ2は行動面の変数と、性欲性は平均的ですが、親密性が特に低いです。また、意見不一致は平均的だが嫉妬心が特に強いという特徴をもっています。これは「冷たい性的主導の関係カップル」として考えられ、32.8%です。

最後にクラスタ1です。クラスタ1は、共行動、身体接触、性欲性が比較的高いのですが、コミットメント、情熱性が低く、浮気性が最も高くなっています。これは男性がプレイボーイ・タイプである場合にみられる関係性かと思います。「プレイボーイ・タイプ」は11.7%でした。

結論として、全般的に男性は、男女関係において男女を結び付ける要因として性的要因を重視しているようです。

では、女性の性的恋人関係のクラスター分析を見てください (Figure 7)。全体で276ケースあり、クラスタ1は77ケース、クラスタ2は57ケース、クラスタ3は82ケース、クラスタ4は60ケースでした。

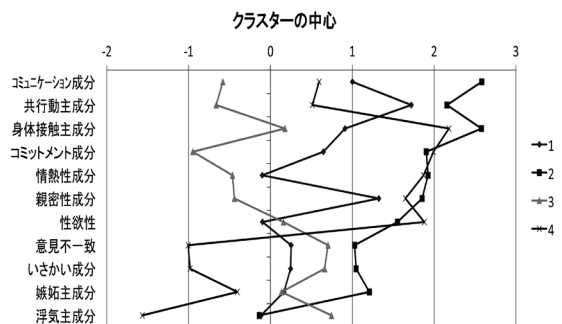


Figure 7 性的恋人関係の女性のクラスタ

最初に、クラスタ2をご覧ください。クラスタ2は行動面、心理面ともに得点が最も高く、ラブラブの関係です。浮気心も非常に低いです。しかし、意見不一致、いさかい、嫉妬心は4グループで最も高い。ラブラブなのに喧嘩が多いということから「仲がよいのに喧嘩する恋人カップル」の典型例でしょう。全体の20.6%



となっています。

次に、クラスタ4です。心理面での結びつきは高いけれども、コミュニケーションや共行動は割合少なくなっています。それゆえ、意見不一致やいさかいが少ないのであろうと思われます。浮気も嫉妬もしないという結果です。昔、『逢わずに愛して』という歌がありました。そういうような関係です。全体の21.7%を占めます。

そして、クラスタ1です。クラスタ1は共行動が多くて、親密性が高いのですが、情熱性、性欲性が低くなっています。意見不一致、いさかき、嫉妬、浮気は平均的です。したがって、「友愛的恋愛カップル」ではないかと思われませんが、全体の27.9%です。

最後にクラスタ3をご覧ください。クラスタ3は、行動面、心理面ともに結びつきが低いのですが、身体接触、性欲性が少し高くなっています。意見不一致、いさかき、浮気心は平均より少し高いです。それゆえ、性的な関係で結びついている「性的恋愛カップル」ではないかと思われま。これは全体の29.7%です。

#### (4) 結婚相手との関係の種類

最後に結婚相手との関係のタイプです。まず、男性のクラスター分析の結果を見ていきます (Figure 8)。全体で85ケースあり、そのうちクラスタ1は46ケース、クラスタ2は34ケース、クラスタ3は3ケース、クラスタ4は2ケースです。

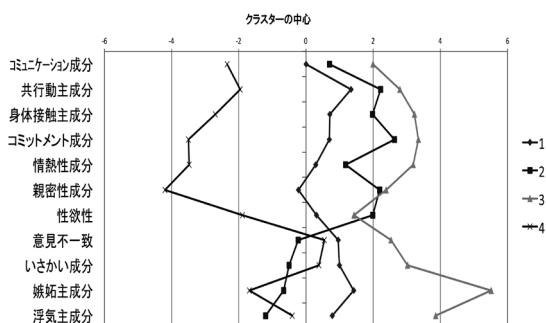


Figure 8 結婚相手との関係の男性のクラスタ

最初に、クラスタ3をご覧ください。クラスタの3は全体の3.5%しかおらず、数は少ないのですが、行動面、心理面ともに相手との結びつきが最も高くなっています。コミュニケーションや共行動が多いということは、理論どおり意見不一致やいさかきが高く、特に嫉妬心は最も高い。そのくせ、浮気心も高くなってい

ます。相手のことが一番好きなのに、一番喧嘩も多く、嫉妬心、浮気のほうも多いという「仲がよいのに喧嘩する結婚カップル」です。

次に、クラスタ2です。行動面、心理面ともに結びつきがクラスタ3より少し低く、特に情熱性はクラスタ1に比べてかなり低くなっています。ただ、親密性は高くなっています。しかし、このことが幸いして、意見不一致やいさかき、嫉妬、浮気心とも低い。いわゆる、「喧嘩のない仲良さカップル」であることが推定されます。全体の40.0%です。

さて、クラスタ1ですが、行動面、心理面ともに結びつきが平均的ですが、親密性が上述の2つのクラスタよりも低くなっています。親密性が低いことが原因で、意見不一致やいさかき、嫉妬、浮気心がすべてクラスタ2よりも高いのではないかと推定します。これは、「親密性がもう少し欲しいカップル」ということでしょうか。ただ、これが54.1%もあるわけです。

最後に、クラスタ4をご覧ください。クラスタ4は行動面、心理面の結びつきが非常に低く、特に親密性が最も低いタイプです。意見不一致、いさかきが多いけれども、嫉妬心や浮気は少ないということですが、ただし、このグループは2.5%しかいません。

一方、女性です (Figure 9)。78ケースのうちクラスタ1は22ケース、クラスタ2は26ケース、クラスタ3は1ケース、クラスタ4は29ケースです。クラスタ1は親密性が最も高く、行動面の結びつきが高くなっています。それらに比べると、身体接触、性欲性、情熱性は多少下がるものの、他の3グループに比べると高い値を示しています。結婚すると、情熱性や性欲性が下がっていくのは仕方ないことですね。クラスタ1は、「仲の良い結婚カップル」であろうと思われます。全体の28.2%になっています。

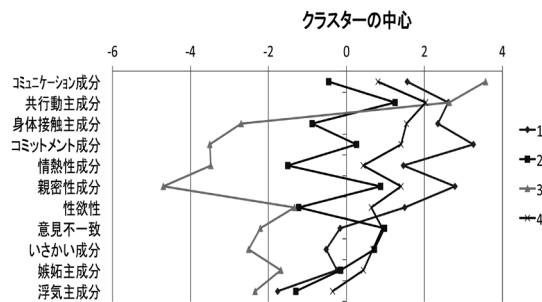


Figure 9 結婚相手との関係の女性のクラスタ

次に、クラスタ4をご覧ください。クラスタ4はクラスタ1に比べて、行動面及び心理面の親密性、情熱性、性欲性がいずれも少し下がっています。そのため、意見不一致、いさかい、嫉妬、浮気はクラスタ1よりも少し増えており、「平均的結婚カップル」です。37.2%となっています。

クラスタ2は、共行動、親密性、コミットメントは高いのですが、身体接触、情熱性、性欲性は低くなっています。また、意見不一致、いさかいは多いけれども、嫉妬、浮気心は少ない特徴を持っていますので、「友愛的結婚カップル」であると思われます。全体の33.3%です。

最後にクラスタ3です。コミュニケーションや共行動が多いのに、親密性や情熱性が非常に低く、意見不一致やいさかい、嫉妬心、浮気は少ないという結果です。「仮面夫婦タイプ」という名前をつけましたが、1ケースであり、全体の1.3%に過ぎませんので、典型的なパターンではありません。

ここまでが第4部の恋愛関係と結婚関係のタイプの発表内容となります。

以上総括すると、男女関係というものは、男性と女性という感じ方や考え方、関心や欲求も違う二者がカップルを形成するわけですから、コミュニケーションや共行動が増えれば増えるほど、意見不一致や喧嘩が生起せざるをえない関係なのですが、それを乗り越えて二者を結びつけるものが、関係初期の情熱性や性欲性であり、そうした情熱性や性欲性が衰えた後でも、親密性やコミットメントという心理的力によって結びついている関係ではないかと思います。

なお、本日はデータ分析をした結果を紹介しましたが、河出書房新社で出版されている『恋愛の俗説の8割はホント』では、心理学から男と女の真理を探っています。エッセイ的な本ですので、難しいことはあまり書いておらず、恋愛や夫婦関係のことについてお知りになりたい一般の方にも読みやすいかと思えます。

ご静聴どうもありがとうございました。

## 引用文献

- 川名 好裕 (2013). 恋愛の俗説は8割ホント。—心理学から“男と女の真理”を探る— 河出書房新社